

平成28年度
第14回 **全国環境連全国大会**

『地域特性を生かした 持続可能な循環共生型社会づくり』

宍道湖（松江市）

2016. **10.21** 〈金〉

ホテル一畑 島根県松江市千鳥町30

TeL 0852-22-0188

主催／全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会

後援／環境省・島根県・松江市

島根県市長会・島根県町村会

協賛／公益財団法人日本環境整備教育センター

一般社団法人全国浄化槽団体連合会

全国浄化槽推進市町村協議会

一般社団法人島根県浄化槽協会

島根県浄化槽推進協議会

担当／全国環境連中国地区協議会

（島根県環境整備事業協同組合）

第14回全国環境連全国大会の開催にあたって

本日、ここに第14回全国環境連全国大会を「水の都」松江で開催できますことを心から感謝申し上げます。また、環境省をはじめ、国会議員の先生方、島根県、松江市並びに各市町村の行政や議会の先生方、また業界関係者・団体など多数の方々のご臨席を賜りましたこと、心よりお礼申し上げます。そして、日頃より多大なご支援、ご指導を賜り、重ねてお礼申し上げます。

今年4月に発生した熊本地震は、熊本・大分地域に多くの被害をもたらし、廃棄物処理業界でも支援活動が進められています。災害廃棄物の処理は大変困難であり、昨年は東日本大震災の教訓を受け、廃棄物処理法の災害廃棄物に係る部分が改正されました。また廃棄物処理業者も含めた災害廃棄物対策地域ブロック協議会の整備が進み、復旧に向けた取り組みがされています。

こうした中、我々全国環境連では、義援金・支援活動を積極的に推進して参りました。これも会員各位の深いご理解と我々業界の社会的な責任の表れであります。

この度、全国環境連はこれまでの活動を踏まえ、人口減少等の社会情勢の変化に適切に対処し、一般廃棄物の適正処理の推進並びに業界の発展に寄与するため「今後の在り方を考える～明日からの未来へ～」と題する「全国環境連ビジョン」を策定し、その目標の実現に向けて積極的に取り組んで参ります。

今大会のテーマは『地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり』であります。人口減少・高齢化社会の現在、自然災害の発生、社会経済情勢の変化や財政制約の中で、様々な経済・社会的課題に直面しています。特に、過疎化が進行し産業基盤の脆弱な地域は、その状況が深刻なものになっています。こうした課題は、環境問題と密接に関係しております。今後、地域視点から環境と共に創る地域社会・経済について、各地域の特徴を生かした持続可能で自律的な社会を創生するための地域づくりが重要であります。地域における環境問題の解決は経済・社会的課題の解決に寄与し、それに取り組むために地域資源を有効活用することが、最善の方策であると確信しております。

本日のこの大会を機に、心新たに全国環境連設立当時の初志を忘れず、組合員一同更なる努力と、一段の飛躍を期する所存であります。

最後に大会開催にあたりご尽力頂きました皆様に深く感謝申し上げますと共に、ご臨席を賜りました多くの皆様方に心からの感謝と更なるご支援、ご指導をお願い申し上げ、ご挨拶いたします。

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
会長 鳥越澄夫

島根県環境整備事業協同組合
理事長 野津勝男

祝 辞



環境整備議員連盟会長

衆議院議員 河村 建夫

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会の第14回全国大会が、茶の湯、和紙、陶漆器などの伝統文化と神話の古里として全国にその名を知られる島根県松江市でこのように盛大に開催されますことをまず心よりお慶びすると共に、全国環境連の鳥越会長をはじめとする会員の皆様方の、循環共生型社会づくりへの常日頃からの研鑽と献身に深甚なる敬意を表します。

皆様方の力強いご支援をいただき、アベノミクス（経済再生策）を高々と掲げて第2次安倍政権がスタートしてから丸く4年近くになりますが、この間、わが自民党は衆参国政選挙に圧勝を重ね、なお道半ばとはいえ、わが国経済は不況からの脱却に向け、着々と歩みを進めて参っております。アベノミクスを支える3本の矢のうち第3の矢たる成長戦略の核となるのが地方創生です。それは新3本の矢が目指す1億総活躍社会を実現するにも決して欠かすことのできない視点です。本大会が循環共生型社会づくりにも地方特性を生かすべきと強調していることはまさにむべなるかなの思いです。

私事で恐縮ですが、政府が安倍首相を本部長とする「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げ、自民党の石破元幹事長が初代地方創生相に就任された際、不肖・私は自民党地方創生実行統合本部長を拜命、地方創生策の陣頭指揮を取る立場で全国を駆け巡りました。

その後、衆議院予算委員長、議院運営委員長として国会活動に全力を傾注して参りましたが、第3次安倍再改造内閣発足に当たり、再び党地方創生実行統合本部長として、いわば古巣に戻って東京1極集中の是正と地方繁栄を実現するべく粉骨砕身する決意です。

今夏の参院選では、わが国に主権がなき状態で事実上、GHQ（連合国軍最高司令部）によって制定された現行憲法改正に必要な改憲派3分の2以上の議席を確保、衆参両院共に改憲の発議が可能となりました。ただ、憲法改正を決めるのはあくまで国民投票による過半数の国民の意思です。これから衆参両院の憲法審査会でどういった条項を改正するか、あるいは加憲するか、慎重に徹底した審議を重ねることになります。昨今、地方温暖化の所為か、全世界のあちこちで台風、津波、地震、火山噴火など天変地異が生起しており、国民が良好な自然環境を享受する権利、即ち環境権を憲法に規定する国は92か国にのぼります。また、首都直下型地震に備えるため、また、各国で急浮上してきた大規模テロの対策のため緊急事態条項を導入する必要もあろうかと思われま

す。憲法にこうした条項が盛り込まれば全国環境連はまさに主役に躍り出ます。この地からさほど遠くない作州（岡山県）出身の剣聖・宮本武蔵は「兵法の極意と治世の要諦には相通うものがある」と書き残していますが、全国環境連の皆様方の不断の修練と技術開発の奥義を為政に極力生かして参ります。手を取り合って頑張りましょう。

祝 辞



環境省大臣官房

廃棄物・リサイクル対策部長 中井 徳太郎

本日、ここに全国環境連第 14 回全国大会がかくも盛大に開催されますことを、心よりお慶び申し上げます。

全国環境連の皆様方におかれましては、日々、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の清掃など、生活環境の保全、公衆衛生の向上のために御尽力されていることに対し、深く敬意を表するとともに、廃棄物・リサイクル行政の推進に格段の御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、本大会は、「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマとして 3 R 活動を積極的に推進し、循環型社会づくりを目指すものであり、誠に意義深いものと考えます。

今年 5 月の G 7 富山環境大臣会合では、資源効率性・3 R の分野で「富山物質循環フレームワーク」が採択され、G 7 伊勢志摩首脳宣言においても支持されました。同フレームワークでは、各国において資源効率性・3 R と気候変動、災害廃棄物等の政策を統合的に促進すること等が盛り込まれました。これを踏まえ、環境省では、一般廃棄物の適正処理を基本としつつ、地域特性を踏まえながら地球温暖化対策、災害廃棄物対策をより一層推進してまいります。

一般廃棄物の適正処理は、地域の生活環境保全・公衆衛生確保のために必要不可欠です。地域社会・暮らしを支えるため、一般廃棄物処理施設の早急かつ適切な更新を進めてまいります。

廃棄物分野における地球温暖化対策については、焼却時における廃棄物は、高効率発電によるエネルギー回収や余熱利用を更に進めることとしており、循環型社会形成推進交付金に加え、エネルギー対策特別会計等を活用しながら、地域の廃棄物エネルギーの徹底活用を推進いたします。

災害廃棄物対策については、昨年の法改正を踏まえ、全国レベル・地域レベルでの災害廃棄物対策の充実を図っています。今年 4 月に発生した熊本地震では、地震から半年が経過し、被災地の復興に向けて損壊家屋の撤去が本格化しつつありますが、災害時における初動対応の重要性が再認識されました。熊本地震での初動対応等を検証し、災害時における国、地方公共団体、事業者等の連携協力等、災害に強い廃棄物処理システムの構築等を更に進めてまいります。

浄化槽については、これからの社会情勢に対応した最適な污水处理システムとして、その役割はますます大きくなっていくものと認識しています。このため、災害に強い特徴を活かした浄化槽の整備の推進と維持管理の徹底を図ることにより、污水处理の未普及解消を進めるとともに、環境配慮型浄化槽の普及により地球温暖化対策にも取り組み、地域の水環境保全や災害に強い低炭素なまちづくりに貢献してまいります。

最後に、全国環境連の皆様方におかれましても、引き続きの御支援、御協力をお願いするとともに、今後益々の御発展と会員の皆様方の御健勝を祈念いたしまして、私のお祝いの言葉とさせていただきます。

祝 辞



島根県知事 溝口 善兵衛

本日、第 14 回目となる、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会全国大会が、このように盛大に開催されますことを心からお慶び申し上げます。

ここ島根に、全国各地からお集まりいただいた皆様を心より歓迎いたします。

日頃から貴連合会の会員の皆様には、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の清掃など、生活環境の保全及び公衆衛生の向上に大きくご貢献されており、深く敬意を表します。

さて、今日、環境問題が世界的な関心事になっており、土壌汚染や廃棄物の不法投棄などの身近な問題から、地球温暖化やオゾン層の破壊などの問題まで、さまざまな環境の危機が指摘されております。

また、人々の生活スタイルが大きく変化し、多様化した現代社会では、「心の豊かさ」が求められており、水や緑の保全といった快適な環境づくりへの関心が一層高まっております。

そのような中、私達は、大切な資源である豊かな自然環境を保全するとともに、快適な環境をつくり、これを国民共有の財産として次の世代へ引き継いでいかなければなりません。

豊かな自然を将来にわたって守り、育てていくためには、し尿、生活排水をはじめとする廃棄物の適正な処理が不可欠であります。

このため島根県では、「島根県生活排水処理ビジョン」に基づき、汚水処理人口普及率の向上に積極的に取り組んでおります。

この計画において浄化槽は、下水道と同様に公共用水域等の水質の保全を目的とした恒久的な汚水処理施設として位置づけられ、その適正な維持管理が強く求められているところです。

今後とも、浄化槽の清掃・保守点検に携わる皆様をはじめ、関係機関と連携しながら、県民の方々へ清掃・保守点検や法定検査などの義務を遵守していただくよう、広く啓発をするとともに、浄化槽の適正な維持管理に努めて参ります。

引き続き、皆様方のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

祝 辞



島根県議会議長 絲原 徳康

第 14 回全国環境連全国大会が、「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマに島根県で盛大に開催されますことをお慶び申し上げますとともに、全国から、「ご縁の国しまね」にお越しいただきました皆様に心から歓迎申し上げます。

また、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会並びに各県の環境整備事業協同組合の皆様方には、平素から良質な水環境保全及び公衆衛生の向上に格別のご尽力をいただいていることに対し、深甚なる敬意を表する次第です。

さて、旧暦の十月は全国の八百万（やおよろず）の神々がここ島根県の出雲大社に集まる月であり、他の土地では神様が留守になるため「神無月（かんなづき）」といいますが、島根県の出雲地方では「神在月（かみありづき）」と呼んでおります。全国から集う神々は、出雲の地で神事（かみごと）、すなわち人には予めそれとは知ることのできない人生諸般の事などを神議り（かむはかり）にかけて決められるといい、男女の結びもこのときの神議りであるといわれています。これが「ご縁の国しまね」といわれている由縁であります。

本日、ここ島根県において、全国の一般廃棄物処理業者の皆様方が一堂に会されましたことは、これも一つの「縁」であります。どうかこの「縁」を大事にいただき、会員の皆様方の一層の連携強化を図られ、今後の貴会の活動に大きな成果をもたらすものと確信いたしております。

ご承知のとおり、河川や海、湖沼等の良質な水環境を保全していく上では、生活排水の対策の推進は必要不可欠なものであります。自然環境に恵まれた本県におきましては、清流として有名な高津川や中海・宍道湖をはじめとして豊かな水環境を保全し、また、活用することが、地域の活性化の上からも求められており、これらの生活排水による水質悪化などの環境問題の解決に努力を傾注しなければならないと考えております。

このため、本県においても合併浄化槽設置や下水道処理施設など地域事情を考慮した整備事業に取り組み、また、廃棄物の発生の抑制、再使用、再利用といった 3 R 事業を元に循環型社会の形成についても市町村と協力して取り組んでいるところであります。

皆様方におかれましては、環境負荷の低減の考えをより一層に進め、地域特性を生かした循環共生型社会づくりへの活動に引き続きご尽力いただくことを心よりお願い申し上げます。

結びになりますが、全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会のますますのご発展と皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げます、お祝いと歓迎の挨拶といたします。

祝 辞



松江市長 松浦 正敬

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第14回全国大会が、盛大に開催されますことをお喜び申し上げますとともに、全国各地から松江市にお越しいただき、市民を代表いたしまして心から歓迎申し上げます。

また、貴連合会会員の皆様におかれましては、一般廃棄物の適正処理や浄化槽の維持管理などを通じて、生活環境の保全並びに公衆衛生の向上に多大な御貢献をいただいておりますことに深く敬意を表する次第でございます。

松江市におきましては、『世界に誇る環境主都まつえ ～リサイクル都市日本一～』を基本理念に掲げ「松江市環境基本計画」を策定し、山陰の中核都市として環境への取り組みの模範となる「環境主都」をめざした施策を展開するとともに、同時に市民の環境意識が日本一高いまちづくりを市民、事業者、行政の共創・協働により目指しているところです。こうした中、現在ごみの9種14分別に積極的に取り組んでおり、今後もより一層のごみの減量、分別及びリサイクルを推進したいと考えております。

また、公衆衛生と快適な生活環境を向上させるとともに公共用水域の水質保全を持続するために下水道、集落排水処理施設及び市町村設置型合併浄化槽の整備をはかり、市内汚水処理人口普及率は97.4%の高水準を達成することができました。その取り組みの成果は、ラムサール条約湿地登録された宍道湖・中海の自然環境の保全・再生に欠かすことができないものであり、5つの大型水鳥類（ハクチョウ類・ガン類・ツル類・コウノトリ・トキ）が生息できる日本で唯一の地域である斐伊川水系の希少な大型水鳥類の生態系ネットワーク形成につながるものと位置付けております。

2015年7月に国宝に指定された松江城を囲む堀は、築城時の姿を今も残しています。その堀川は、昭和47年から同時に取り組みを始めた汚水処理施設整備事業と堀川浄化事業により水質改善による水辺環境の再生に成功し、平成9年には堀を小舟でめぐる『ぐるっと松江 堀川めぐり』の運行を始め現在では年間30万人を超える観光スポットとして定着することができました。是非この機会に、時間の許します限り『水の都松江』を存分にご堪能いただき、大会の良き思い出としていただければ幸いに存じます。

本市の持つ宍道湖・中海、日本海や緑豊かな山々などの水と緑に象徴される自然環境を、将来を担う次の世代へ確実に引き継ぐためには、農業集落排水処理施設、漁業集落排水処理施設及び合併浄化槽による生活排水処理は不可欠なものと考えており、今後とも一層の普及促進と維持管理の強化に関しまして皆様方の御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の、今後益々のご発展とご健勝を祈念申し上げまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

全国環境連第 14 回大会を祝して



公益財団法人 日本環境整備教育センター

理事長 廣瀬 省

全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会第 14 回全国大会が「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマに、このように盛大に開催されますことを心からお祝い申し上げますとともに、優良役員・従業員表彰の栄に浴された方々に心よりお慶び申し上げます。

貴連合会会員の皆様が、全国の一般廃棄物の適正処理と循環型社会の実現を目指し、わが国の良質な水環境の確保と公衆衛生の向上に大きく貢献しておられますことに対し、深く敬意を表する次第です。

また、私ども日本環境整備教育センターの事業推進に対し、常日頃より格別なるご協力を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、昭和 58 年に浄化槽法が制定されてから 33 年が経過し、浄化槽を取り巻く状況は大きく変化しており、廃棄物対策も身近な衛生上の問題としてだけでなく、むしろ生活環境の課題として早急に取り組まなければならない時代になってきています。とくに浄化槽による地域の水環境の改善効果を最大限に引き出すために、面的整備、適正な維持管理、及び官民連携がポイントであり、地域住民が参加し、進められる浄化槽整備こそが真に地域の水環境の保全に役立つものと考えています。

環境配慮や持続可能性への関心が強まるなか、企業の社会的責任が問われる今日、浄化槽も性能基準化に伴う処理技術の進歩に対応すべく、個々の処理技術は浄化槽関係技術者に委ねられることとなり、その役割は益々重要なものとなってきています。

一方、将来の污水処理施設整備計画を描く際、把握しておかなければならないことは人口動態ですが、すでにわが国は 8 年前の 2008 年には人口減少に転じるなど人口オーナス社会を向かえており、様々な分野に影響を及ぼしていることはご承知のことと思います。その中であって、浄化槽は個別分散型施設であるため、家屋の減少や集落の喪失があった場合に個別に対応できることから、比較的容易に適正規模に変更でき、市町村の人口減少や財政規模に見合った施設として国内外において期待されています。今後の将来を見ずえる上において、より一層の浄化槽整備は必須であり、さらには防災・減災施設への対応が期待される中で、都市区域内においても浄化槽の設置が求められています。このようなことから貴連合会に対する期待は一層大きくなるものと思います。

当教育センターは、今日まで浄化槽に係る様々な課題を十分認識し、微力ながら浄化槽関係唯一の教育機関として、浄化槽関係技術者の養成、技術向上に努めて参りましたが、今後とも浄化槽事業発展のため、一層の努力を致す所存でございますので、皆様方におかれましても引き続きご協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、貴連合会と会員の皆様の今後益々のご発展、ご活躍を心からご期待申し上げますとともに、ご参集の皆様方のご健康とご多幸を祈念いたしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

全国環境連第 14 回大会を祝して



一般社団法人 全国浄化槽団体連合会

会長 佐藤 佑

このたび全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会が「第 14 回全国大会」を開催されるに当たり、心からお祝い申し上げますとともに、私ども全国浄化槽団体連合会に対し、常日頃より格別なるご支援、ご協力を賜っておりますことに対し、厚く御礼申し上げます。

貴連合会は、「相互扶助の精神と互いの経営資源の補完」「知性と良心」「自由闊達な建設的議論」「相互の人格と個性の尊重」「民主的運営」等を基本理念として、我が国の健全で恵み豊かな生活環境の確保と、公衆衛生の向上に大きく貢献してこられました。本大会においては、「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマに、国・地方・関係業界と協働して環境・経済・社会が統合された持続可能な地域づくりをめざし、この国の自然を未来に継承するための強い決意を表明されております。21 世紀は「環境の世紀」・「水の世紀」といわれています。地方創生、地域活性化、さらには地域環境保全が注目される中、今大会のテーマは誠に時宜を得たものと、深く敬意を表するものであります。

全国の汚水処理人口普及率は 89.5%となったものの、未だ約 1,300 万人が汚水処理未普及という状況であり、残された地域への汚水処理施設の早期整備が求められています。浄化槽は、少子高齢化・人口減少社会において、効率的・経済的かつ柔軟に、社会ニーズに応え続けることができる分散型インフラであり、この特長を生かし、社会を支える汚水処理サービスとして、安定的・効率的にサービスを提供することができます。浄化槽による汚水処理サービスは、真に持続可能な循環共生型社会の実現に大きく寄与するとともに、暮らしの質の向上に貢献するものです。さらに浄化槽は、地震等の災害に強い、強靱な汚水処理システムでもあります。厳しい財政状況の中で、汚水処理普及率を 100%にするには、「環境にも財政にも優しく、地震にも強い浄化槽」の整備比率を、飛躍的に高めていかなければなりません。

全浄連では、こうした「浄化槽整備推進の柱」として、「浄化槽整備区域の拡大」「単独処理浄化槽から合併処理浄化槽への速やかな転換のため、法改正と公費負担」「浄化槽維持管理費に対する下水道並みの公費助成」「魅力ある地方を創生するためにも、生活排水処理施設は浄化槽で整備」などを、国及び浄化槽推進議員連盟に要望しており、その実現に向け、粘り強く活動してまいります。

末永い日本の繁栄を築き、美しい水環境を守ることは、私どもの永遠の責務です。全浄連は、その実現に皆様と共に手を携えて努力してまいりたいと存じます。

結びに、貴連合会のご発展と会員皆様方の今後益々のご発展とご活躍を心より祈念いたしまして、お祝いのご挨拶とさせていただきます。

大会の目的

我々一般廃棄物処理業者は、市町村の自治事務の代行者として、廃棄物処理事業が開始されたときから今日まで、適正な廃棄物処理を通じて、わが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界を取り巻く厳しい経営環境は、年々その度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換（支援）業務（補償）の獲得が、今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。

我々はこの難局を乗り切るために、積極的に英知を結集し自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。そして、今後も絶え間ない技術革新で、業界の未来は開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なりサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。その上で、企業の社会的責任（CSR）の視点から業界全体での思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観の追及に取り組まなければならない。

現在、人口減少・高齢化社会を迎え、また地球温暖化問題による自然災害の発生・社会経済情勢の変化や財政制約の中で、様々な経済・社会的課題に直面しています。これらの課題は環境問題と密接に関係しており、特に地域という視点から環境とともに創る地域社会・経済について、各地域の特性を生かした持続可能で自律的な社会を創生するための地域づくりが必要である。

我々全国環境連は「ビジョン」を策定し、組織の見直しなど新たな出発への取り組みを行っており、今後こうした社会の課題・要請に対し、地域を軸に組合員が共生し世代を超えて循環共生型社会づくりを推進するものである。

本大会は「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、地方創生が叫ばれる今日、国・地方及び関係業界と協働して環境・経済・社会が統合された持続可能な地域づくりをめざし、この国の美しい自然を未来に継承するための我々の強い決意をここに表明するものである。

講演

【時間】13時30分～15時40分 【場所】サンシャインホール

講演Ⅰ 13時30分～14時30分

【演題】

「G7 富山環境大臣会合を受けたチャレンジ ～循環共生型社会に向けて～」

【講師】

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部

廃棄物対策課長 瀬川 恵子 氏

【講師プロフィール】

平成元年、厚生省入省後、環境庁出向（それぞれ当時）。環境省広報室長、化学物質審査室長、環境影響審査室長、国際連携課長等を経て、平成28年6月に廃棄物対策課長に就任。

講演Ⅱ 14時40分～15時40分

【演題】

「出雲の魅力 ～豊かな自然と歴史文化～」

【講師】

公益財団法人しまね文化振興財団 理事長／松江歴史館・館長

藤岡 大拙 氏

【講師プロフィール】

京都大学卒業後、高校教諭を経て島根県立八雲立つ風土記の丘所長・島根県立女子短期大学学長（現島根県立短期大学部）を歴任。現在、公益財団法人しまね文化振興財団理事長・松江歴史館館長・荒神谷博物館館長ほかに就任。

大会式典

【時間】16時00分～17時00分 【場所】サンシャインホール

1. 物故者に対する黙祷
.....
2. 開会の辞
.....
3. 大会式辞
.....
4. 優良役員・従業員表彰
.....
5. 受賞者代表謝辞
.....
6. 政府に対する要望決議発表
.....
7. 大会スローガン発表
.....
8. 大会宣言
.....
9. 来賓祝辞
.....
10. 祝電披露
.....
11. 閉会の辞
.....

第14回全国大会 政府に対する要望決議

私達、一般廃棄物処理業者は今日まで、市町村の自治事務の代行者として長年ただひたすらに、廃棄物の適正処理に取り組み、我が国の生活環境の保全及び公衆衛生の向上に重要な役割を果たしてきました。

しかしながら近年、下水道の整備普及による業界の業務は、目に見えて先細りの一途をたどり、経営圧迫による危機感を抱いております。そのため私達は「合特法」に基づいて転換業務（補償）獲得を市町村に要求していくものであります。

そのうえで、経営の安定を維持し、廃棄物の適正処理を全うし循環共生型の社会づくりの実現を図って参りたいと存じます。つきましては、何卒、下記の事項について特段の措置を講じられますよう切に要望するものであります。

記

1. 下水道の整備により影響を受ける一般廃棄物処理業者等に対して、安定かつ継続する業務を保障する観点から「合特法」に基づく合理化事業計画の策定を行い、それを実行に移すことにより、転換業務（補償）の確保を図られたいこと。
2. 一般廃棄物処理計画に基づき一般廃棄物の適正な処理が確保されている場合には、新たな業の許可はいたずらに過当競争等を招き、ひいては適正な処理が困難となるおそれが高いため、既存の適正規模の処理施設や体制を維持するよう地方自治体に対して指導の徹底を図られたいこと。
3. PFI事業による浄化槽市町村整備推進事業の維持管理については「合特法」の趣旨に沿い市町村において適切な対策が講じられるよう指導されたいこと。
4. 浄化槽の維持管理については、適正な維持管理の徹底により、浄化槽の正常な機能が常時確保されるよう指導されたいこと。併せて、法定検査の受検率の著しい向上に効果的である「指定採水員制度」も堅持し、全国的に法定検査の実施が促進されるよう関係者に対する指導の徹底を図られたいこと。
5. 污水处理施設（下水道、浄化槽、農漁集排、汚泥再生処理センター）の整備については、人口減少等を考慮した経済的で効率的な整備が推進されるよう指導されたいこと。
6. ディスポーザーの普及に最適な排水処理システムの確立及び維持管理に関する法体系の整備を速やかに図られたいこと。
7. 災害に強く技術革新の可能性のある浄化槽の分野について、最適な維持管理システムの構築や浄化槽汚泥の活用などの課題に着目し、イノベーション（技術革新）創出を導き出す研究開発を重点的に推進するための措置を講じられたいこと。

以上

大会スローガン

1. 下水道整備の進捗に伴う転換業務（補償）獲得
1. 不法・不当な新規許可の反対並びに委託・許可制度の適正な運用
1. 浄化槽の適正な維持管理の徹底
1. イノベーション(技術革新)による事業の安定的発展
1. 循環共生型社会づくりの実現に向けた3R活動の推進
1. 全国環境連ビジョンの実行と次世代を担う人材の育成
1. 労働災害ゼロの徹底と福利厚生の実現

大会宣言

私達一般廃棄物処理業者は、廃棄物処理事業開始以来今日まで、市町村の自治事務の代行者として、適正な廃棄物処理を通じてわが国の良質な水環境の確保及び公衆衛生の向上に寄与してきたところである。

しかし、その傍ら下水道の整備が進む中、業界の経営環境は年々厳しさの度合いを強めている。そのため「合特法」の趣旨を踏まえた転換（支援）業務（補償）の獲得が今や緊急の課題となっていることはいうまでもない。この難局を乗り切るためには、積極的に英知を結集し、自らの力で業界の経営基盤の安定を図っていくことが必要である。

業界の未来は、絶え間ないイノベーション（技術革新）によって開かれるという信念のもとに、創造性を備えた先進的なリサイクル等の技術開発に努めていくことが強く求められている。また、私たち業界は、企業の社会的責任（CSR）の視点から思い切った意識改革に取り組み、新たな価値観を追求することも必要である。

21 世紀は環境の世紀といわれる中で、水は国民の貴重な共有財産であり、水循環への負荷を未然に防止し、その低減に努め、健全な水循環の維持向上を図り、循環共生型社会を確立することが重要である。安全で安心な水循環を流域単位で達成し、地域社会の良好な生活環境を確保し、それを将来世代に継承していくことは一般廃棄物処理に携わる我々の責務であり、業界一丸となって取り組まなければならない。

私たち全国環境連は、初心を忘れず、強固な団結と協調の下で、ユーザーや社会に対する責任と業の発展に貢献すべく、改めて基本理念を確認し、我々の目的、目標の達成に向けて、積極的に役割を果たしていく所存であり、今般、「今後の在り方を考える ～明日からの未来へ～」と題する「全国環境連ビジョン」を策定し、新たな出発への積極的な取り組みを行っているところである。

本大会は、「地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり」をテーマに全国の一般廃棄物処理業者が一堂に会し、地方創生が叫ばれる今日、国・地方及び関係業界が協働して、環境・経済・社会が統合された持続可能な地域づくりによって、この国の美しい自然を未来へ継承することを目指すものである。

以上宣言する。

平成 28 年 10 月 21 日

第 14 回 全国一般廃棄物環境整備協同組合連合会
全国大会

大会懇親会

【時間】 17 時 30 分～ 19 時 30 分 【場所】 平安の間

1. 開会の辞

2. 主催者挨拶

3. 来賓祝辞

4. 来賓紹介

5. 乾杯

6. 次回開催担当県挨拶

7. 閉会の辞

安来節

一字川耕士（いちじがわこうじ）ご一行

私たちは生まれ育ったこの島根県を代表する民謡安来節を少しでも多くの方々に知って頂く為活動をしています。安来節は島根県の代表的な民謡で、どじょうすくい唄としても全国的に広く親しまれています。安来市は古くから鉄や米の積出港として栄え、元禄の頃に北前船の船頭たちによって安来節の原型ができたといわれています。江戸末期には、いろいろな音楽の影響を受けながら「安来節」として変化、成長していきました。本日は自慢の『安来節』を見て、聞いて頂きたいと思ひます。



石見神楽

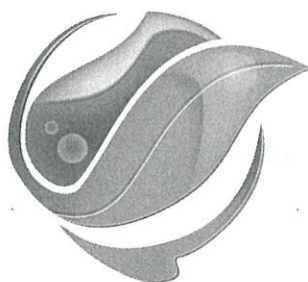
谷住郷神楽社中《たにじゅうごうかぐらしゃちゅう》

島根県の西部「石見地方」で行われる神楽を「石見神楽」といいます。にぎやかな笛や太鼓の囀りにのって神々の物語を再現し、豪華絢爛な衣裳をまとった勇壮で活発なテンポの神楽は、全国各地でもほかにはありません。もともと一年の豊作や人々の健康を祈り、神に歌や舞を奉納するもので、毎年 10 月の秋祭りの中で執り行われます。谷住郷神楽社中は、島根県江津市桜江町の見水山八幡宮にある神楽社中で、例大祭をはじめ、県内外の諸行事に積極的に参加して石見神楽の継承・発展に努めています。



全国大会のあゆみ

| 回 | 開催年月日 | 担当地区 | 開催地 | テーマ |
|----|-------------|--------|-----------------|--------------------------|
| 1 | 平成15年9月26日 | 九州地区 | 赤坂プリンスホテル | 循環型社会へ新たなスクラム |
| 2 | 平成16年9月9日 | 九州地区 | ホテルニューオータニザ・メイン | 循環型社会への挑戦 |
| 3 | 平成17年9月14日 | 九州地区 | ホテルニューオータニザ・メイン | 循環型社会の創造 |
| 4 | 平成18年9月14日 | 中国地区 | ホテルニューオータニザ・メイン | 循環型社会のイノベーション(技術革新) |
| 5 | 平成19年10月19日 | 九州地区 | 岡山プラザホテル | 浄化槽が拓く循環型社会づくり |
| 6 | 平成20年9月25日 | 中国地区 | ホテルニューオータニザ・メイン | 水資源の創造、浄化槽 |
| 7 | 平成21年10月16日 | 九州地区 | 鹿児島サンロイヤルホテル | ふるさとの健やかな水環境、浄化槽 |
| 8 | 平成22年10月21日 | 関東中部地区 | ホテルメトロポリタン長野 | 水から水へ 人から人へ 未来へつなぐ浄化槽 |
| 9 | 平成23年10月28日 | 中国地区 | ホテルニュータナカ | まちにひとに健全な水循環を! |
| 10 | 平成24年10月10日 | 九州地区 | 宮崎観光ホテル | 守ろう水資源 つなげよう未来へ 災害に強い浄化槽 |
| 11 | 平成25年10月18日 | 中国地区 | ホテルニューオータニザ・メイン | 水環境による自然共生社会の実現 |
| 12 | 平成26年10月10日 | 関東中部地区 | ホテル東日本宇都宮 | 世界に誇る浄化槽 未来へ残そう美しい自然 |
| 13 | 平成27年10月30日 | 九州地区 | レンブラントホテル大分 | 未来環境への責任 ~人と浄化槽が出来ること~ |
| 14 | 平成28年10月21日 | 中国地区 | ホテル一畑 | 地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり |



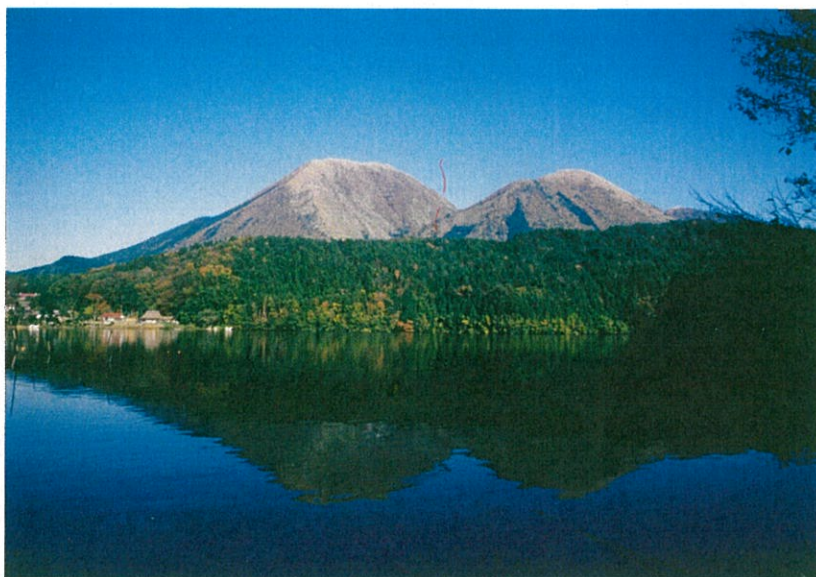
全国環境連



全国環境連

平成28年度
第14回 **全国環境連全国大会**

『地域特性を生かした持続可能な循環共生型社会づくり』



三瓶山（大田市）

島根県環境整備事業協同組合

事務局 〒690-0815 島根県松江市西持田町 1292-1

TEL 0852-32-4818 FAX 0852-25-6667